

企業局経営プランにおける令和3年度実績（自己評価）に対する意見

鳥取県企業局経営プラン評価委員会

【令和3年度実績評価】

項 目		委 員 意 見	評価区分の 見直し等
事業別事項	1 電気事業	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセッション対象及びリニューアル工事対象の発電所を除いた発電量目標達成率は82%とほぼ目標を達成している。 ・小鹿第一・第二・日野川のリニューアル工事はコンセッション運営業者が順調に実施している。 ・エネルギーが大きな問題となっている現在、水素、洋上風力発電等、新エネルギーに関しては現状情報収集段階であると思われるが、情報収集を進め、事業化に向けての更なる調査・検討を進めてほしい。 	
	①供給電力量 (CO2 排出量削減)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の地域新電力への供給は地域貢献に繋がり評価できる。今後は地域新電力の経営状況にも目配りしてほしい。 ・昨年指摘した長期契約の入札方法については、随意契約によらない入札のあり方について更に検討を進めてほしい。 ・一般競争入札が可能となる次の機会まで、他の公営電気事業の一般入札結果なども調査し、今後の合理的な売電方法につながるよう情報収集すること。 	
	②売電方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の3発電所は、コンセッション事業者が行っており、これを適切にモニタリングしている。春米発電所は前年度に終了し、当年度の実施は3ヶ所であり、目標どおりの達成と考える。 ・今後とも計画的・規則的なりニューアル工事の実施により施設の健全性を維持継続していくよう取り組んでもらいたい。 	
	③発電所リニューアル事業の実施及び検討	<ul style="list-style-type: none"> ・電力料収支について、繰延運営権対価収益を収益に計上しており、経常収支比率の評価をするには継続性を欠くので、経常収支比率を「電力料収益/運転経費（除、減価償却）」で計算すると、財政計画183→決算値163となり、89%であるため、A評価とした。ただし、内容を見ると、新幡郷発電所を中心に発電量の減少を修繕費の減少で補って収支尻を合わせており、実質的に大きな経営努力によるものとは言えない。 ・目標数値未達ではあるが、適当と認められる水準にあり懸念されるような経営状況ではないと考えられる。 	
	④経常収支比率	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という制約の中では住民見学会等相応の実績を残したと思われる。しかし、コロナ感染症の感染拡大の影響により、見学申し入れの一部は受け入れできなかったこと、また、コンセッション事業者の地域貢献活動も制約を受けたことからB評価とせざるを得ないと考える。 ・小水力は管理業務の一部委託を実施しているが、運営委託も検討してはどうか。また、コンセッションの運営業者の地域貢献提案の実現に向けた必要な協力を行うことが望まれる。 	
	⑤地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセッション運営事業者との協働が始まる難しい状況の中で地域新電力への売電等、一定レベルで事業を遂行していると評価できる。今後、コンセッション事業についてモニタリングを明確に行い、事業者が地域に定着するための支援を行うことを望む。 ・今回のコンセッションの位置づけ、評価を行い、かつ今後の公営水力発電事業方式について、引き続き検討することを望む。 ・電力料金の高騰、電力制度の見直し等、電力システム改革への対応との関係で、市場動向の変化に注視しながら事業運営を行うよう提案する 	
	総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセッション運営事業者との協働が始まる難しい状況の中で地域新電力への売電等、一定レベルで事業を遂行していると評価できる。今後、コンセッション事業についてモニタリングを明確に行い、事業者が地域に定着するための支援を行うことを望む。 ・今回のコンセッションの位置づけ、評価を行い、かつ今後の公営水力発電事業方式について、引き続き検討することを望む。 ・電力料金の高騰、電力制度の見直し等、電力システム改革への対応との関係で、市場動向の変化に注視しながら事業運営を行うよう提案する 	

項 目		委 員 意 見	評価区分の 見直し等
事業別 事項	①新規需要開拓	<ul style="list-style-type: none"> 工業用水事業にとって厳しい環境の中で、他部局や地元市等と連携し、新規需要を開拓し、更なる事業拡大に向けた取り組みをしており、評価できる。 	
	②施設の適正管理（日野川）	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が進んでいる日野川工業用水施設に関して、漏水対策に努めている。 計画断水を行い、ユーザー企業に迷惑を掛けることなく対策を実施した。 ただし、漏水対策箇所の増加が評価基準というのは、違和感がある。漏水対策工事の効率的な進め方や、工業用水施設のアヴェイラビリティ（可用性）の確保等何らかの納得できる評価基準（数値目標）を考えてもらいたい。 	S→A
	③経常収支比率	<ul style="list-style-type: none"> 新規需要開拓の効果もあり収入は増加したが、施設の老朽化等により維持管理費用が増加、結果収支はやや悪化した。老朽化対策を別途考える必要があるものと思料される。 	
	総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> 工業用水事業を取り巻く環境は厳しいが、その中で関係部局・地元自治体との連携等を通じて新規需要開拓について相応の成果をあげている。今後更なる経営努力を望むが、引き続き種々の民間との連携方策（例：一般道路アヴェイラビリティ PFI 等の方策）を検討していただくよう期待する。 	
	3 埋立事業	<ul style="list-style-type: none"> 新規分譲への営業活動を積極的に行っており評価できる。今後は、団地内の区画変更（面積増等）や長期貸付から分譲への変更等質的向上も視野に入れた経営のあり方を考えてほしい。今後、全国的に商工業・観光等の用地需要増の可能性もあり、あまり急がずに質的改善を含めてじっくり進めて良いのではないかと。 10年間の計画期間中の位置づけとしての進捗の点からは順調に進んでおり、A評価と認められる。債務超過が解消傾向にあることは、具体的な行動の成果として高く評価されてよいと考える。 	
	4 共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 企業局は「事業感覚を持った公務員」の育成が何より重要である。コンセッションの実施により、民間事業者との連携を通じて事業感覚のある人材が育っている感がある。今後更なる企業感覚のある人材が育成されることを期待したい。 これまでに計画している研修受講などは着実に実施されていることが認められるので、継続して取り組むことを要望する。なお、社会・経済環境が変化していることから、外部環境変化に対応した知識や経験の蓄積につながるよう、必要に応じて研修の機会と予算の拡充も検討して欲しい。 人材も大切な財産であり、働きやすい環境とその人材を育てるための研修は不可欠である。 	
	総括的事項	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー問題が世界的な問題となっている現在、豊富な水力を背景とした電力事業等、企業局の業務はますます幅広くなっている。特に、コンセッションの実施により外部民間事業者が参入し、更に地元企業への売電等民間事業者との接触がますます多くなりつつある。電力事業、工業用水、用地各部門とも一定の成果を挙げつつあり、今後更に県経済の基盤作りに寄与することを期待したい。 今回の経営評価の対象期間は、コロナ感染症対策として令和3年度の職員の活動が制限されていた時期と思われるが、着実な取り組みにより、全体として経営目標の達成に向けた成果が得られたものと考えられる。 今後とも限られた職員数で経営目標に掲げた事項を達成していくためには個々人の知識とノウハウ、経験の蓄積などを充実することによってこれまで以上の仕事を担っていかねばならない状況にある。そのため必要に応じて、人材育成に関する研修の機会と研修の種類および研修費の予算の拡充などの対応も検討の上、取り入れるよう要望する。 	